

今年はASEAN50周年

アジア開発銀行と保健分野の連携を強化

01



署名式に臨んだ北岡理事長(左)と中尾ADB総裁(右)。木原副大臣(中央)が立ち会った

JICAは5月4日、アジア大洋州地域における健康の安全保障と、全ての人々が支払い可能な費用で医療サービスを受けられるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の推進に向けた連携強化を目指し、アジア開発銀行(ADB)と協力覚書を締結しました。横浜市で開催された第50回ADB年次総会で、木原稔財務副大臣の立会いの下、北岡伸一JICA理事長と中尾武彦ADB総裁が署名式を行いました。

近年の世界はグローバル化が進み、国境を越えて感染症が拡散するリスクが増大しています。加えて、アジア大洋州地域では、高齢化の急速な進行が見込まれる中、非感染性疾患、認知症といった新たな健康課題や、高齢者の介護などに対応していく必要があります。日本は、「人間の安全保障」の考えの下、公衆衛生危機への対応力の強化、危機への予防・備えとUHCの推進を大きな柱として、かねてより世界の健康課題に取り組んできました。2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)では、人々の健康的な生活の確保などを目標3として位置付けており、UHCの達成は国際的に重要な目標となっています。昨年のG7伊勢志摩サミットでは、日本は議長国として「国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン」を採択し、前述の柱に沿って国際保健の取り組みの方向性を世界に示しました。今回の協力覚書は、こうした流れの中で、ADBと連携してアジア大洋州地域における保健分野の課題解決を目指すものです。JICAとADBは今後、(1)「健康の安全保障」および公衆衛生危機への備え・対応力の強化、(2)母親、子ども、高齢者、障害者、難民などの脆弱層にも焦点を当てた人々の健康な生活の確保、(3)介護、地域における包括的なケアを含む高齢者支援といった目的に向けて連携していきます。両者の連携は知見・教訓の共有に始まり、政策提言や保健人材の育成などの技術協力における連携、水・衛生といった保健関連のインフラ整備のための協調融資など、さまざまな可能性が見込まれています。

アフリカの都市のごみ問題解決を目指して

02



プラットフォームの設立宣言を読み上げるモザンビーク・チモヨ市のラウル・コンデ・マルケス・アドリアーナ市長

JICAと環境省は4月27日、モザンビークの首都マプトにおいて、アフリカ24カ国、国連環境計画(UNEP)、国際連合人間居住計画(UN-HABITAT)、横浜市と共に、「アフリカのきれいな街プラットフォーム」を設立しました。設立式には、モザンビークのセルソ・イスマイル・コレリア土地・環境・農村開発大臣、デビッド・シマング・マプト市長、日本の伊藤忠彦環境副大臣、山内邦裕JICA地球環境部長が参列しました。SDGsでは、初めて廃棄物処理に関する国際的な目標が設定され、各国が解決を目指しています。一方、アフリカの都市部では、経済成長と急激な人口増加に伴いごみ問題が深刻化し、生活環境の改善が差し迫った課題です。「アフリカのきれいな街プラットフォーム」は、第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)のフォローアップの一環として、各国政府やパートナー機関と共に、2030年までにアフリカで「きれいな街と健康な暮らし」の実現を目指します。

ニカラグアから「ルベン・ダリオ文化独立勲章」を受章

03



授賞式にて。左からムリージョ副大統領、高田JICAニカラグア事務所長、オルテガ大統領

JICAはニカラグア政府より、「ルベン・ダリオ文化独立勲章」を受章しました。この勲章は、昨年に米州開発銀行総裁(個人)に授与されていますが、国際援助組織としての受章はJICAが初めてとなります。ニカラグアを代表する詩人の名を冠したルベン・ダリオ文化独立勲章は、教育、文化、技術革新などを通じ、社会の発展およびニカラグアと当該国間の関係強化に貢献した個人・団体に対し、大統領から贈られる、ニカラグアにおける最高位の勲章です。授賞式は、5月5日に大統領私邸で開催。オルテガ大統領から、長期にわたる両国の友好関係と相互協力への感謝の意が述べられるとともに、勲章と証書がJICAニカラグア事務所の高田宏仁所長に手渡されました。JICAのニカラグアにおける協力は昨年25周年を迎えました。震災や内戦から回復し、順調な成長の歩みを始めたニカラグアに対し、JICAは今後も貧困削減と格差是正による安定した経済成長のための支援をしていきます。